岐阜農林事務所の普及活動状況

令和元年１０月２５日現在

今月の重点活動

■スマート農業　自動運転コンバイン実演会を開催

10 月 17 日、(農)巣南営農組合が耕作する水田にて、県主催のアシスト運転機能付き汎用コンバイン（通称：自動運転コンバイン）の実演会が開催された。

これは、国のスマート農業実証プロジェクトとして実施したもので、当日は農業法人や大規模稲作農家、関係機関など約 50 名が参加し、メーカーから機能等の説明の後、刈取りの様子を見学した。

自動運転コンバインは、刈取りや旋回が自動化されオペレータは運転席で監視のみと操縦負荷が軽減されるばかりでなく、収穫と同時に収量や食味データを収集する機能もあり、良食味米生産にも繋がると期待されている。

【実演会の様子】

農業普及課では、事前に収穫ほ場の生育調査や坪刈りを行い、自動運転コンバインの収量や食味データとの比較、作業性の分析等を進めている。　（地域支援第三係・松本政行）

多様な担い手づくり

■えだまめ　ＪＡぎふえだまめ部会若手部と代表役員との意見交換会

10 月 11 日、岐阜市にある島集荷場において、ＪＡぎふえだまめ部会若手部が部会の代表役員との意見交換会を企画し、代表役員と若手部および農業普及課など関係機関も含め 20 名が参加した。

今年は、えだまめが単価安で推移していることから若手生産者の危機感は高く、今後産地の維持発展に向けてどのような取り組みが必要か、熱心な意見交換がされた。

農業普及課からは、産地の信頼アップのためＧＡＰ導入は重要で、若手生産者にも労働環境の改善など積極的に取り組んでほしいと呼びかけた。　（園芸産地支援第一係・高井啓）

■いちご　労務管理研修会を開催

10 月 1 日、ＪＡぎふ黒野流通センターにて、雇用導入を検討しているいちご生産者を対象とした労務管理研修会を開催した。

当日は、生産者７名のほか市・ＪＡなど関係者 15 名が参加して、社会保険労務士の荒井妙子氏から労務管理の基礎について説明の後、実際の雇用する際の問題点などについて検討した。

すでに雇用導入している生産者からは、雇用を継続するには、まず信頼関係を築いていく必要性などの指摘もあり、人を雇う難しさも実感する内容となった。

【労務研修会の様子】

農業普及課では、今後、実際に雇用を進める生産者を対象に、関係機関と連携を図ながら支援をしてく予定である。　（園芸産地支援第一係・菊井裕人、園芸産地支援第二係・三和浩一）

売れるブランドづくり

■カキ　早秋・太秋・早生富有柿出荷開始、富有出荷目揃え会開催

本年の収穫・出荷が、10 月４日から早生品種「太秋」、７日から「早秋」、９日から中生品種「早生富有」と各産地で始まり、併せて出荷目揃え会や市場との情報交換会が開催されている。

本年は、梅雨時の日照不足、８月の高温・干ばつによる日焼け果の発生や、台風によるキズ果の発生など、出荷量や果実品質に多少の影響はあるものの、出荷目揃え会で各生産者へ家庭選果の徹底を呼びかけ、選果場においても品質を落とさぬよう徹底した選果により、高品質な柿の出荷が行われている。

【選果場にて目揃え会】

10月下旬には、主力品種「富有柿」の出荷目揃え会や「ねおスイート」の試験販売も実施する予定で、農業普及課では、収穫作業や栽培管理の注意点等の情報提供を行い、高品質果実の出荷に向けた支援を行う。（園芸産地支援第二係・鷲見彩子、小枝俊仁）

■水稲種子　「ハツシモ岐阜ＳＬ」種子の収穫が始まる

【収穫作業風景】

羽島市水稲種子採種組合では、小熊、足近、桑原の３地区において「ハツシモ岐阜ＳＬ」の種子を合計7.86ha生産している。

本年は、８月末には出穂期を迎え、穂揃いまで曇雨天続きであったが、細菌性穂枯れの発生は非常に少なかった。

また、不順な天候が続いたこともあり、より登熟度合いを高め精選歩留りを向上させるために、関係機関で協議して収穫開始時期を平年より3日遅らせ、10月21日から開始することとした。

今後は、農業普及課にて種子発芽試験を実施し、合格した種子は精選作業を経て、次年度の種子として出荷される。（地域支援第二係・今井啓司）

■ブロッコリー　ＪＡぎふ園芸塾を開催

【受講生による中耕作業】

10月24日、ＪＡぎふ園芸塾（ブロッコリー）が各務原市にて開催された。当日は、受講生４人が出席し、はじめに農業普及課から病害虫防除の基本や追肥等の方法について講義を行い、その後実際にほ場にて追肥と中耕作業を実習した。

ほ場では、農業普及課から栽培管理のポイントを教わりながら実習を進め、慣れない作業であったが受講生で用意したほ場すべてを完了できた。

ＪＡぎふ園芸塾（ブロッコリー）は、次回は12月ごろに収穫作業を行う予定で、これが最後の講義となり農業普及課としては次の就農へ繋げたい。（地域支援第二係・水川　誠）

■桑の木豆生産クラブ　桑の木豆の出荷始まる

【桑の木豆の収穫】

山県市旧美山地区の桑の木豆生産クラブは会員数25名で、飛騨美濃伝統野菜に認証されている桑の木豆を栽培している。

桑の木豆は、莢の紫模様が特徴で、莢ごと煮物などにして食用にする。名前の由来は桑の木に蔓をはわして栽培したことによる。

10月中旬より莢が色づき収穫が始まったが、今年は発芽後の連続する降雨やその後の高温・酷暑により、平年に比べ収穫開始が２週間程度遅れた出荷となった。

農業普及課では、植え付け前や収穫前の講習会、生育中の巡回指導など、天候の変化に応じた高品質な桑の木豆の生産・出荷へ向けた支援を行っている。（地域支援第三係・宮木英有）

住みよい農村づくり

■都市的農業　普及事業推進協議会で都市的農業の勉強会

【都市的農業を学ぶ】

10月24日、ＪＡぎふ本店にて管内市町とＪＡ、農業共済で構成する「岐阜地域農業改良普及事業推進協議会」幹事会が、都市的農業に関する勉強会を開催した。

勉強会では、(一財)都市農地活用支援センターの佐藤統括研究員を招き、「新たな都市農業・農地制度」と題して、法令だけでなく都市農業振興基本法制定後の各自治体の動きや、市街化区域内での日本版ＣＳＡといった営農活動について情報提供があった。

協同農業普及事業では、市街化区域も含め普及活動を実施することになっているが、都市的農業をどう展開するか今回の勉強会を契機に、改めて市町等と連携した取り組みを進めたい。

（地域支援第一係・山田和彦）